令和6年度第1回可児市多文化共生推進会議 議事録（要点録）

1. 開催日時 令和6年9月10日（火）10時00分～11時45分

2. 開催場所 可児市役所4階第3会議室

3. 出席者（19名）

（1）委員

近藤 敦	坂江レアンドロユウキ	浜口 旭波	佐橋 志保子
中田 実	佐橋 恒和	各務 眞弓	可児 整
佐野 朝子	藤村 祐子	今井 竜生	松原 眞弓
佐合 佑介	山田 久子		

（2）事務局

市民文化部長	飯田 好晴	
地域協働課課長	田島 純平	
人権・国際係長	木村 彰伯	
人権・国際係	加藤 エジソン	梅村 萌

4. 内 容

（1）開会

（2）市民文化部長あいさつ

（3）新委員自己紹介

（4）議題1

令和5年度可児市多文化共生推進計画進捗状況（資料番号3・4）

（5）議題2

意見交流

（6）その他連絡

（4）議題

1. 令和5年度可児市多文化共生推進計画進捗状況について（資料番号3・4）

事務局）資料3・4について説明。

委員長）ご質問や意見はあるか。

委員）先ほど資料3の項目22「外国籍労働者を雇用する企業等との連携」について学校教育課から、現在は今後の事業内容を検討してはいるが、コロナ禍より前にさかのぼって、どのような事業をしていたか、過去の担当者に聞いても分からないと説明があったが、おそらく会議を開催していた頃は、参観日などの色々な行事の際に保護者の方が休むのが困難だという事情があり、企業に理解をしていただけるよう

お願いをしたり話し合いが行われたりした。

委員) 私が担当していたころは、派遣会社をまわり、学校の行事への理解や運動会などの行事の時期をお伝えし、企業の方々にうまく休みをやりくりしてもらえるよう協力をお願いしていた。子どもが学校で急に体調不良になった時、保護者への連絡も中々取れなかったもので、スムーズに連絡がとれるように対策案を協議する時間を取っていた。そして、繰り返すうちに企業側もある程度状況が分かってきて協力をいただけるようになってきた。企業へお願いに行くと、分かっているから大丈夫ということで、会議の必要性もなくなってきたという状況ではあった。

委員長) 別の自治体だと商工会議所のイベントなどに外国籍市民が参加したり、経営者も参加したりしている場合もある。そのような場合は、イベントに参加した外国籍の方々から伝えてもらえるかもしれない。派遣会社で働いている委員もいるので、皆様のつてをたどって連絡先のリストなども可能であれば共有できるとよいのではないか。

委員) 担当課では企業のリストなどを把握していないため、そのような連絡先があるとありがたい。

委員) 中学2年生くらいに職場体験がある。そこで、外国籍の人が多く働く企業へも体験できるとよいと思うのだがどうか。

委員) 事業所選びは各学校の先生によるが、そのような視点で事業所を選べるような働きかけはできるので今後そのような姿勢ももっていきたい。

2.意見交流

委員) 夜間中学についてどのような状況か。

委員) 県は、県内に1校か2校つくる予定だが、可児市内につくるには積極的に手を挙げない限りできない。全国高校入試調査というのもあり、夜間中学についても全国にネットワークはあるが、中々動けないのが現状ではある。夜間中学についてのアンケート調査も行われたが、愛知県に比べると回答率も低く、盛り上がりもあまりない。不登校の子どもや戦時中に教育機会を失った人もいるので、そのような方々のための支援も必要だということについて、声を上げていかないといけない。もし、可児市につくるのであれば県立で建ててほしい。

委員) 地域に根差した日本語に関する活動を今渡だけでなく、外国籍市民が集住している地区の地区センターで日本人と交流できる活動や場所があるとよいと感じる。今後はどのように活動展開をしていくのか。

委員) フレビアだけではなく、外国籍市民の集住地区の地区センターでイベントを主体的に行い、そこには外国籍市民もたくさん参加して下さるようになってきている。一緒に講座を企画して参加してもらおうとなるとやはり予算もある程度必要になってくる。日本語教室を各地区センターで行えるようになるのが理想ではある。

委員) やさしい日本語について外国籍市民会議で取り上げたとあるが、どのような意見が会議で出たのか教えてほしい。

事務局) 「言わなくても分かるよね」など、こちらの意見をくみ取ってくださいと察することは確かに難しい。最後まで言わなくても相手に理解を求めていると感じる。他にも敬語が難しいと感じる。日本人の方は失礼のないようにすごく丁寧な言い方をしてくれていると思うが、外国籍の方には伝わりづらいと思う。ストレートに言っていたほうが分かりやすい。などの意見が出た。

他にも例えば、「児童玄関からお入りください。」など、「児童」が分からないから、「自動」と勘違いもしてしまう。「登下校」も、行く時間、帰る時間の方が伝わると思うという意見もあった。

さらに、フィリピンでは24時間表記をしないので、13時からなどと記載されると「13時は午後何時? 3時なのかな。」と勘違いしてしまうこともある。am、pmで全て表されるため、学校の懇談の時間なども勘違いが起きやすいという話もあった。

このように様々なとても参考になるご意見をいただいた。

委員) 地区センター独自で取り組まれるイベントが今後開催される。うまくいけば今後は他の地区センターでも展開できるのではないかと思う。地区センターがハブになって地域の日本人と外国籍の方々とのコミュニケーションに繋がると最近すごく思うので、もっと行きやすいと思える働きかけが必要だと思う。例えば、曜日を決めて通訳を常駐するとか。自治会や子供会に入ってもらっては難しいかもしれないが、花いっぱい運動には参加していただきたいと思う。ここにはこういう方が住んでいるのだと顔見知りになることができるし、年2回なので、そこまで負担はないのではないか。どのように参加してもらえるかなどは子どもを通じてお便りを渡すなど、関係課と協力できれば良いと思う。

委員) 外国籍の方が自治会の班長や役員などの役割を担うことは、難しいとは思いますが役員にはならないようにすれば、入会率も上がるのではないか。

委員長) 地区ごとのイベントなどの情報が集約されたサイトがあるとよいのではないか。多文化共生に関するイベントがいつどこで行われているのかというまとまった情報は、可見市のホームページでは分からないため、集約サイトがあると情報が伝わりやすくなるのではないか。

委員) 子供会の話があったが、PTA も子供会も自治会も日本人と外国籍の方々に連携してやれば良いのではないかと。言葉が話せなくてもできることはあると思う。

委員) 自治会に加入しないと子供会に入会できないところも多く、以前子供会の勧誘のチラシの翻訳もさせていただいて、相談に来られた方に渡したこともある。子供会や地区のイベントには参加してほしいという声も地区センター長さんから上がることもある。できれば家族で参加してほしいが色々な当番が回ってきてしまうと難しいと思う。

委員) 地域と外国籍の方々を繋げる役割を持った人が必要だとは思いますが、どのようにそのような人たちを育成していくかも課題になってくるとは思う。日本人側も外国籍市民を受け入れるという雰囲気を作り、自治会や地域で支え合うということが進んでいくと良いと思う。

11 時 45 分 閉会